

まえがき

本報告書は、アジア経済研究所において 2011 年度から 2 年計画で実施している「中東における繊維・アパレル企業の経営と情報戦略」研究会の初年度の成果の一部である。

この研究プロジェクトは、中東諸国のなかでも比較的大きな国内市場をもつふたつの国エジプトおよびイランの繊維・アパレル企業を対象として、(1) 経営上の金融資源のあり方 (2) 人材確保のためのノウハウ (3) 原材料調達の経路 (4) 製品販路の確保と開拓 (5) 販売促進活動など広義のサプライチェーンのありかた、などに着目し、それらがどのような特徴を備えているかを分析することを目的としている。また同時に、当該国の政策環境の変化やグローバル化の進行のなかで、原材料調達や製品の流通ルートの変容に直面する企業が、生産の現場で上記の諸項目に関しどのような対応を迫られているのか、そこにどのような経営革新（の要素）が含まれているのかなどを、具体的に明らかにする。

従来の中東諸国の製造業研究においては、繊維・アパレル産業を含め、統計資料を利用したマクロのトレンド分析は一定程度行われてきているものの、企業単位での調査研究は（調査実施上の政治的障害もあり）相対的に遅れている。そこで本プロジェクトでは、中東企業研究としては画期的な試みである個別の事業所を対象とする調査を通じて、上述の課題に取り組むことを目指した。

本報告書は、2010 年にエジプトとイランのそれぞれにおいて実施された調査を中心として、得られたデータを整理し、その含意を示したものである。いずれの調査の質問票も、上述の問題関心に沿って構成され、かつその一部は共有されている。エジプトでは、製糸・捻糸・生地製造・縫製を含む民間部門の繊維・アパレル企業を対象として、質問票を用いた大規模な訪問面接調査が行われた。また同時期にイランでは、就労者数 10 人以上の規模を持つ民間部門のアパレル企業を対象とした大規模なアンケート調査が実施された。なお、これらの調査は「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業・研究プロジェクト『アジアのなかの中東』（2006-2010 年度・研究代表：加藤博）の一環として行われた。このうちイランでの調査は同プロジェクトとアジア経済研究所の共同研究のかたちをとったことを付記しておく。

両国とも、中小・零細企業が繊維・アパレル生産の主力であるという点は共通しているものの、いくつかの相違点もある。例えば、エジプトは産地が全国に分散しているのに比してイランは首都圏に集中している、被調査企業の半分（かつ零細企業の大半）が下請け企業であるエジプトとは対照的にイランでは元請け・下請け関係にある企業が限られている、などである。いずれも製品の販路がどのように確保されている

かが企業立地と深く関わっていることをデータから読み取ることができ、広義のサプライチェーンが生産組織をどのように規定するかという問題に多くの示唆が与えられる調査結果となっている。

本報告書は、あくまでもプロジェクトの中間成果であるため、分析の視点や論点の建て方などにいまだ不十分な点が多々残されている。来年度の最終成果作成にむけ、忌憚のないご意見・ご批判を賜れば幸いである。

2012 年 3 月

編者

目次

第1章 経済のグローバル化とエジプト繊維産業・・・・・・・・・・	1
----------------------------------	---

加藤 博

岩崎 えり奈

柏木 健一

第2章 イランにおける「大規模」アパレル企業：その類型と経営の特徴・・・・	55
---------------------------------------	----

岩崎 葉子

執筆者一覧（執筆順）

加藤 博	一橋大学経済学部教授
岩崎 えり奈	共立女子大学文芸学部准教授
柏木 健一	筑波大学北アフリカ研究センター助教
岩崎 葉子	日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター主任研究員